

2023年6月

MARC厚木ニューズレター

ま〜るく通信 第1号

『ご挨拶』

マルク厚木
代表 泉谷 雅

皆様、こんにちは。はじめまして。マルク厚木で代表をしております、マリファナ・アディクトの泉谷（エヴァ）と申します。

令和5年6月1日、神奈川県厚木市に日本初のマリファナ依存症に特化した回復施設、『マルク厚木』MARC（Marijuana Addiction Rehabilitation Center）を開所致しました。

私自身、マリファナ依存症に長い間苦しみ、やめたくてもやめられない状況が長い間続きました。その結果、他のドラッグ・アディクションへ移行し、多くのものを失いました。最後の最後に、ダルクにたどり着き、奇跡的に、回復することが出来ました。そのダルクの活動の中で、気づいた違和感やマリファナ・アディクトとしての感性を大事にした施設を作りたいと思うようになりました。

私は、この3月31日まで、静岡県にありますが、スルガダルク、浜松ダルクで施設長として16年間勤めて参りました。その中で、複数の刑務所での薬物依存離脱指導の外部講師を務めさせて頂きました。そこで出会う受刑者と話す中、大麻（マリファナ）事犯で服役されている方たちには、覚せい剤の依存の方が多いと感じる「ダルク」はハードルが高い、また、既存の所内で行われているプログラムは馴染みづらい、そして、皆さん容易にやめられると思っている...罪の意識が薄い...大麻を使いながら、仕事をもって、家庭をもって、趣味をもってなどある程度の社会生活を送れている...などの共通点があることに気づきました。と同時に、ここ最近の傾向として、再犯者の増加も顕著になって来たように思います。これから先、絶対に、彼らに合う回復施設が必要になるだろうと考えるようになりました。そんな時、今は亡きダルク創設者の近藤恒夫さんの言葉を思い出し、「そうだ...！そう云う施設がないならば、そう云う場所を自分が作ればいいのか...！！」と...自助グループやダルク、はたまた、矯正施設、家庭や勤め先、地域社会、どこにも、居場所がない、彼らのための居場所を、マリファナ・アディクトの自分が作ろう...同じマリファナ・アディクトだからわかりあえる、支えあえる、そんな居場所を作ろうと思に至りました。

そして、まさしく、今、マリファナ・アディクションで苦しんでいる仲間たちが安心して回復出来る場所を開設するに至りました。

マルクは、マリファナがいいとか悪いとか言ったことには全く興味はありません...ただ、あなたが、マリファナをどうしたいと思っているのか？もしくは、あなたがマリファナを止めたいと思っているのなら、私たちは力になれると思っています...

一緒にマリファナをやめてみませんか...？

一緒にマリファナなしの人生を歩んでみませんか...？

一緒にマリファナをやめて、自由になりませんか...？

一緒にマリファナをやめて、幸せになりませんか...？

マリファナ・アディクトたちがやめ続けていくためには、同じマリファナ・アディクトたちが必要なのです...

皆様、どうぞ、『マルク厚木』を今後ともよろしく願いいたします。

『私の目指す回復』

瞬透

はじめまして、大麻依存の瞬透(しゅんすけ)です。大麻を吸いたいという欲求が止まないもので、マルクで回復を目指しています。大学一年で大麻と出会い、15年間使用を続けてきました。仲間と楽しく過ごすため、一人の時間を大切にするため、辛い仕事を乗り切るため、大麻が生きる目的であった時期もありました。しかし、大麻のもたらす幸福と癒しに魅了された結果、精神病院に送られて、そこで依存症と診断され、大麻を断った生活のためのリハビリテーションを受けることになりました。この辛い社会で生きるため、他に頼れるものがなく使用していた大麻はしかし、その存在は違法なもの。わかってはいたけど仕方がなかった、やれやれこの先も大変だなと思っていた矢先のタイミングで、マルクを知ることができました。

「・・・大麻・・・依存症者・・・に・・・よって・・・つくられた、依存症者のための支援施設」、ここでなら生活し易いだろうし、回復もスムーズに目指せるな、と反射で入所を決めました。

直感が実感に変わったのは、ミーティングでの分かち合い。今まで自分が何をきて、今、どう考えて生きているのか、同じ大麻に依存しているからこそ共感できる価値観を素直に共有し合ったからこそ仲間意識もはじめて芽生えた、マルクは確かに、回復を望む人が安心して集える場所でした。

マルクの回復までのプログラムはDARCの文化を踏襲しつつ、無理をしない生活リズムや健康的な生活習慣、食事、セルフケアなどが重視されています。施設環境は都会的な便利さもあれば田園的風景もあり、山川が囲む風の吹き抜けで清潔感のある、住居を備えた二階建てです。多少車の通りが多かったり、ヤンチャな輩もいたりするようですが、刺激に飽きない要路沿いで、利用者は私が最初で一人。所長夫妻は人が増えたらいろいろしたいねと、なにやら様々目論む様子。気になる飲食店のチェックには、毎日余念が欠かせません。

私は大麻を使用する生活をしてはいましたが、それはそれとして別に、今の社会に生きづらさを抱く人たちのために働きたいとも思っていました。今はその目標に、依存を抱える人たちのことも加わりました。回復のその日は諦めなければ辿り着ける、遠回りこそが最短の道だったと私の好きなマンガでも言っていました。その目標のためにも今日一日を、依存を忘れ、おだやかに過ごす必要があります。

回復の日を望む仲間が一人でも増えますように。 peace.

『はじめまして』

泉谷美智子（ミイ）

はじめまして。この度、マルク厚木にて依存症の回復スタッフとして携わせて頂きました、

泉谷美智子です。“ミイ”と呼んで下さると嬉しいです。

マルク以前には成人(精神障がい)就労支援B型で指導員として数年、のちに療育センターにて発達障がいのお子様への療育ケアを8年ほどしていました。

その間、生きづらさを抱えた多くの方々に関わる中で、どんな方々も根本には少なからず発達障がいの特性の傾向を持っているのではないかと感じました。

そして、生きづらさを抱えていた私自身も、その傾向がある事実気づき、認識し、療育で学んだ工夫で対処する中で、人間関係や社会生活をより円滑、スムーズに行えるようになって来ました。

“発達障がい”がキーワードとして取りざたされている昨今ですがそれはあくまで社会的、集団側からの見方、意見であり、本来は個々が持つ個性として認め尊重され、然るべきフォローを受ける事で、今まで否定され続けて深く傷ついた心が癒されてゆくのではないのでしょうか。

そして、もう一つ大事なものが毎日の食事だと感じます。

私自身、過去に心の病を発症した経験から、マクロビオティクス、ローフード、アーユルヴェーダ、ハーブ、薬草、薬膳などの食事療法を学びました。

最近では脳に働きかけ、発達障がいの改善にも役に立つと言われているミネラル成分をたっぷり取り入れた食事療法に注目しています。

ただ、栄養を摂取する為だけで無く、その時々、個々の心や身体の状態に寄り添いながら、食事も重要な日常のケアの一つとして、回復に役立てていけたら幸いです。

どうぞ、これからもよろしくお願ひ致します。

マルク厚木より緊急のご支援・ご協力のお願ひ

マルク厚木は、まだまだ、開設したばかりの施設でございいますので、公的な援助もなく、非常に苦しい状況で運営されております。どうか、皆様方のあた

たかいご支援、ご協力を給いますようお願い申し上げます。また、お米や食品類、野菜類、日用品、生活雑貨（石鹸、シャンプー、洗剤、タオル他）等がございましたら、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。何卒宜しくようお願い申し上げます。

 お振り込み先

 スルガ銀行 藤沢支店

 普通預金 口座番号 : 3743725

ダイヒョウ イズミヤ タダシ

 口座名義 : マルク・アディクションリハビリセンター 代表 泉谷 雅

編集者 : マルク厚木 泉谷 雅

事務所 : 〒243-0804 神奈川県厚木市関口397-2

TEL/FAX : 046-281-9325

MAIL : marc.atsugi@gmail.com